

2016 年度 LGBT 調査報告書

関西学院大学社会学研究科 一飯塚諒、智原あゆみ

概要

本稿は、2016 年 4 月 15 日（金）～6 月 17 日（金）にかけて関西学院大学にて行った LGBT 調査の報告書である。関西学院大学人権教育室では、2015 年度から LGBT に関する調査をネットアンケート上で行い、本報告書は 2 回目(2016 年度)の調査である。

関西学院大学（以下、関学）では、LGBT をはじめとする多様な性のあり方の理解を深めるイベントとして、2013 年から毎年、「関学レインボーウィーク」を人権教育研究室のもと開催している。

本調査は、第 4 回の関学レインボーウィークと併せて行った。過去の開催日程は以下のとおりである。

【関学レインボーウィークの開催日】

- 第 1 回：2013 年 5 月 13 日～17 日
- 第 2 回：2014 年 5 月 12 日～16 日
- 第 3 回：2015 年 5 月 11 日～15 日
- 第 4 回：2016 年 5 月 16 日～20 日（西宮上ヶ原キャンパス、西宮聖和キャンパスにて）23 日～27 日（神戸三田キャンパスにて分けて開催）

目的

2015 年度の調査では、関学にて LGBT をはじめとする性的マイノリティの当事者が、セクシュアリティを理由にいかに不安や困難を被っているのかを明らかにするためウェブ調査を行った（回答者 111 名 当事者 58 名 非当事者 53 名）。

結果、マイノリティであることを理由に被る困難やハラスメントが、キャンパス内において学生や教職員によって日常的に加えられていることがわかった（小林ほか 2016）。この結果をうけ、2016 年度の調査では、困難やハラスメントの有無のみならず、当事者のニーズ・要望を収集することを主な目的として調査を実施した。そのなかで、自由記述を中心に丁寧にみていくことによって、どのようなセクシュアリティの人が問題や困難や不安を経験し、また、それに対する大学への要望にはどのような内容があるのかについて明らかにすることを目的としている。

調査概要（回収期間・広報）

2016 年度の調査は、第 4 回レインボーウィークの期間に併せて、2016 年 4 月 15 日～6 月 17 日に行った。

(回答者 202 名 当事者：79 名 非当事者：118 名 セクシュアリティの無回答：5 名)¹

広報は、関学レインボーウィークの配布パンフレットに掲載、またイベントに併せて口頭で宣伝、Twitter、LINE、Facebook などの SNS の利用、学内の情報掲示板(教学 web サービス)にて掲載など行った。

¹ 回答者における当事者/非当事者の分類に関しては、下記「セクシュアリティの分類」にて詳しく記述する。

セクシュアリティの分類

どのようなセクシュアリティの人がどのようなニーズ・要望をもっているかについて明らかにするために上記の表のように便宜的にセクシュアリティの分類を行った。

分類方法は、本調査での質問項目にある「出生時の戸籍上の性別（出生時）」「自覚(自認)している性別（性自認）」「生活する性別（性表現）」「好きになる性別（性的指向）」をもとに分類したものである。*戸籍上の性別以外は、「その他」（自由記述）項目をもうけ、準備した選択肢に該当しない性のあり方も収集するよう努めた。

表 1: 「セクシュアリティの分類」（人）

		当事者(79)											非当事者(118)		
出生時	女性							男性				女性	男性		
	女性		男性	X/他	男性		女性	X/他	女性	男性					
性自認	女性		男性	X/他	男性		女性	X/他	女性	男性					
	女性		男性		男性		女性								
性表現	女性		男性		男性		女性								
	女性	両性 性別を問わない (特定の相手のみ) 特定の人を 好きにならない。			男性	両性 性別を問わない 特定の人を 好きにならない。									
性的指向	女性	両性 性別を問わない (特定の相手のみ) 特定の人を 好きにならない。			男性	両性 性別を問わない 特定の人を 好きにならない。				男性	女性				
	レズビアン女性	バイセクシュアル女性	デミセクシュアル女性	アセクシュアル女性	その他女性	Trans to Male FtM	X gender FtX	ゲイ男性	バイセクシュアル男性	アセクシュアル男性	その他男性	Trans to Female MtF	X gender MtX	ヘテロ女性	ヘテロ男性
	7名	28名	1名	8名	0名	2名	6名	11名	7名	2名	2名	3名	2名	82名	36名

参考：虹色ダイバーシティ「LGBTと職場環境に関するアンケート調査 2015」

※0内は自由記述にて記載されたもの。

※以下、トランスジェンダーにおける量的記述は、表1:「セクシュアリティの分類」の「Trans to Male」、「FtX」、「Trans to Female」、「MtX」を集計したものである。

※注意しなければならないのは、性のあり方は多様かつ流動的であり、上記のカテゴリが包括的ではない点である。本調査では性的マイノリティを対象に“当事者のニーズを収集する”ことを目的としているため、便宜的に上記のセクシュアリティで分類し分析を行っている。

さらに、表では「出生時の性別」「性自認」「性表現」「性的指向」の段階にわけて細分化しているが、この順序が固定化され限られたものではない。選択された選択肢の種類が少ないものから順に分けているため、上記のような順序にて示している。

※トランスジェンダー（性別越境者）は広義の概念であり、本調査では、「戸籍上の性別」と「性自認」に違いがある場合に該当させている。「戸籍上の性別」と「性自認」の性別が一致しているが「生活する性別」に違いがある場合は、性自認が女性の場合は「その他女性」、性自認が男性の場合は、「その他男性」の項目に計上させて、自由記述の紹介の表記は「女性として生活する男性」「男性として生活する女性」と表記している。同様に、自由記述にて自らを「デミセクシュアル」(Demisexual)と記述する回答もあった。自由記述の紹介のセクシュアリティの表記は「デミセクシュアル」として記述する。

調査項目

質問紙では主に「回答者と関学とのつながり」（学部生か、教員かなど）、上述の「セクシュアリティの分類」また、「就職活動」「キャンパスライフ」「大学の授業」「健康診断」「トイレ」「更衣室」「授業内評価アンケートなどの書類」「窓口や相談機関」の項目に分け、セクシュアリティ²を理由とする問題、困難、不安有無、（ある場合は具体的な自由記述）と、その解決策として大学はどのような対策をする必要があるのかを収集した。しかし、要望（ニーズ）はその場（アンケート回答時）で聞き出すことは難しいと判断していたため、想定される事例を用意し自由選択してもらった。そのほかにある場合に自由記述をしてもらった。最後に、大学に対する意見・要望などの自由記述と、本調査そのものに対する意見・要望などを自由記述してもらった。本報告書では、その一部を紹介するものである。

調査協力者の属性は以下のとおりになった。

表 2: 「属性の分類」（人）

学部生	150
留学生	10
大学院生	11
教員(非常勤を含む)	8
職員(アルバイトを含む)	7
卒業生	11
関わりがない	1
高等部生	1
答えたくない	3
合計	202

² 設問では「性別、性自認、性的指向を理由に問題、困難、不安を経験したことがありますか?」とした。これら性のあり方を問う項目のため、包括し以下、設問では「セクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあるか」と表記する。

※複数回答の場合、教員＞職員＞卒業生＞留学生＞大学院生＞学部生＞高等部生の順に優先順位をつけている。

以下、自由記述の紹介では、個人の特定を避けるため、

「教員(非常勤を含む)」と「職員(アルバイトを含む)」をまとめて「教職員」と表記する。

また、「学部生」と「留学生」と「大学院生」をまとめて「学生」と表記する。

【就職活動】

問題、困難、不安などの経験について-就職活動

就職活動に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあるかの有無は以下の数になった。

表 3: 「就職活動における問題・困難・不安の有無」(人) -以下、括弧内はパーセンテージで表す。

	当事者	非当事者	合計
ある	8(10.1)	3(2.5)	11(5.6)
ない	23(29.1)	57(48.3)	80(40.6)
答えたくない	2(2.5)	0(0.0)	2(1.0)
わからない	5(6.3)	4(3.4)	9(4.6)
したことがない	40(50.6)	54(45.8)	94(47.7)
無回答	1(1.3)	0(0.0)	1(0.5)
合計	79(100.0)	118(100.0)	197(100.0)

表 4: 「就職活動における問題・困難・不安の有無-トランスジェンダーを抜粋」(人)

	トランスジェンダー
ある	5(38.5)
ない	3(23.1)
答えたくない	0(0.0)
わからない	0(0.0)
したことがない	5(38.5)
無回答	0(0.0)
合計	13(100.0)

「就職活動の困難などがある」と回答した人の自由記述は以下のとおりである。

【トランスジェンダーの人の記述】

性転換手術をしたいけど、周りの反応や就活が心配でできない。けど、男として働きたいとは思わない。(Trans to Female/学生)

企業の面接官によっては邪険な扱いを受けたように感じた。(Trans to Female/卒業生)

性別欄の記入、スーツの着用。(X gender/学生)

男女別の採用など。(X gender/学生)

【以下、その他】

結婚や転職の話など。(レズビアン・女性/学生)

まだ就職活動の時期ではないですが将来的に問題になると思っています。(ゲイ・男性/学生)

結婚しないままでやっていけるのか、バレたら問題にならないか等不安を感じた。(ゲイ・男性/教職員)

友達は結婚や出産を考えて就活していることが多いので将来について話していても、話が合わない。企業の説明会でも結婚出産と両立できるかという話をしてあげばいいだろうという感じで、結婚や出産をしていない人がどういう待遇を受けているか聞く機会がない。(レズビアン・女性/学生)

自己分析をする際に自分のライフプランが描けない。自分が志望する企業に働きやすい環境が整っているのかが不透明。(ゲイ・男性/学生)

解決策について-就職活動

大学の対策として考えられる以下の選択肢を提示し、必要だと思う対策すべてに複数選択が可能な形で回答をもとめた。

- 1、キャリアセンターなどの職員向けに LGBT の基礎知識や人権に関する研修を行う。
- 2、LGBT などにフレンドリーな企業のリストを作って提供する。
- 3、今のままでいい。
- 4、思いつかない。
- 5、その他（自由記述）

以下が用意した項目にチェックされた数の表である。

表 5: 「就職活動における改善策」(人)

	当事者	非当事者	合計
キャリアセンターなどの職員向けに LGBT の基礎知識や人権に関する研修を行う。	32 (36.0)	51 (43.6)	83 (40.3)
LGBT などにフレンドリーな企業のリストを作って提供する。	45 (50.6)	43 (36.8)	88 (42.7)
今のままでいい。	3 (3.4)	5 (4.3)	8 (3.9)
思いつかない。	9 (10.1)	18 (15.4)	27 (13.1)
合計	89 (100.0)	117 (100.0)	206 (100.0)

表 6: 「就職活動における改善策—トランスジェンダー抜粋」(人)

	トランスジェンダー
キャリアセンターなどの職員向けに LGBT の基礎知識や人権に関する研修を行う。	5 (31.3)
LGBT などにフレンドリーな企業のリストを作って提供する。	8 (50.0)
今のままでいい。	0 (0.0)
思いつかない。	3 (18.8)
合計	16 (100.0)

就職活動の困難などにおける改善策は以下であった。(自由記述より)

【トランスジェンダーの人】

当事者の職員がいる方が何事も相談等がしやすいと思うので、大学に LGBT 採用枠を設ける。他大学や企業等に波及したら良い。(Trans Female/卒業生)

LGBT の類を過度に取り上げたならば、逆効果ともなるので、具体的な対策というわけではないが、配慮されたい。(X gender/学生)

【以下、その他】

LGBT フレンドリーな企業を目指す企業の人事担当者と、当事者との対談イベントを設けて欲しいです。LGBT を気遣おうとするストレートの多くは実際のニーズに合っていないことを良かれと思ってやってしまうことがあると感じています。当事者とストレートとのニーズのすりあわせを公開で行う機会が必要であると思います。(バイセクシュアル・男性/学生)

学校に来る企業の方たちにその都度 LGBT のことについて話す機会を設ける。学生たちに LGBT やその他の社会問題について考えてもらう授業を作る。(必須科目になれば大きな変化があると思います)(ゲイ・男性/学生)

学生に対しても LGBT の基礎知識や人権、差別に関する講義科目を設置する。(女性として生活する男性/学生)

社会に対して啓蒙活動を行う。(シスジェンダーヘテロ・男性/教職員)

企業に向かって働きかける。(シスジェンダーヘテロ・女性/教職員)

LGBTのみならず多様な価値観・生き方を認める風潮をつくる。(シスジェンダーヘテロ・女性/教職員)

問題に関しては、就職活動においては、性別欄やスーツ、採用など男女に分ける構造への衝突や、性適合手術のタイミングが、トランスジェンダーを中心にあげられた。また結婚や転勤、ライフコースが描けない、働きやすい環境が整っているかわからないなどが、同性愛を中心にあげられた。

解決策に関しては、企業にたいしてはLGBTの基礎知識や、対談をするイベントを設ける、学生にたいしてはその旨の授業を行うなど、理解を深めることを重要視する意見が集められた。またトランスジェンダーからは、相談しやすいため大学にLGBTの当事者などの職員などを可視化させることなどが要望としてあった。

【キャンパスライフ（サークル・部活）】

問題、困難、不安などの経験について-キャンパスライフ（サークル・部活）

サークル・部活動に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあるかの有無は以下の数になった。

表 7: 「キャンパスライフにおける問題、困難、不安の有無」(人)

	当事者	非当事者	合計
ある	20(25.3)	3(2.5)	23(11.7)
ない	44(55.7)	107(90.7)	151(76.6)
答えたくない	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
わからない	11(13.9)	6(5.1)	17(8.6)
その他（未加入）	3(3.8)	1(0.8)	4(2.0)
無回答	1(1.3)	1(0.8)	2(1.0)
合計	79(100.0)	118(100.0)	197(100.0)

表 8: 「キャンパスライフにおける問題、困難、不安の有無-トランスジェンダー抜粋」(人)

	トランスジェンダー
ある	5(38.5)
ない	4(30.8)
答えたくない	0(0.0)
わからない	3(23.1)
その他（未加入）	1(7.7)
無回答	0(0.0)
合計	13(100.0)

「キャンパスライフの困難などある」と回答した人の自由記述は以下のとおりである。

【トランスジェンダーの人の記述】

恋愛の話になると周囲に合わせて会話するのが辛かった。(Trans to Female/卒業生)

下ネタについていけない。(Trans to Female/卒業生)

自分の性別のことを一人一人説明するのも面倒くさいし、かといって、男として生活するのも嫌で、サークルは辞めました。多くの人と関わって仲良くなるより、一人の方が最近では楽と感じます。(Trans to Female/学生)

自分のセクシュアリティを公表して、またはそれが知られてしまって気持ちが悪いだとか言われたりするんじゃないかと思う。(X gender/学生)

過剰に女性扱いをされた。(Trans to Male/学生)

【以下、その他】

女性が部長になることが極端に少なかったため、どう振る舞えばいいのかに不安を覚えた。(バイセクシュアル・女性/卒業生)

サークル内に彼女がいるため私はクローゼットにしているが、彼女は元々オープンなので彼女が偏見の目で見られて傷ついているのに何もできないのが悔しい。また彼女に対する偏見の声は自分の心にも刺さる。さらに、サークル内での恋バナでは正直に話せなくて、彼女が目の前にいるのに恋愛に興味のないフリーな人というキャラを演じなければならない場面が苦痛。(デミセクシュアル・女性/無回答)

すべてがストレート前提なので非常に窮屈に感じ、深い人間関係を築けなかった。(ゲイ・男性/教職員)

恋愛の会話に入りたくないが、人が集まると必然的にそのような会話にもなる。その時どのような反応をすべきか分からない。(レズビアン・女性/学生)

重いものを運ばされる。男なら男らしく～しろとか言われる。(ゲイ男性/学生)

彼氏を作らないと変な話になったりなど。(レズビアン・女性/学生)

部活で恋バナで盛り上がって話を降振られた際、本当のところ「彼女」だけど、周囲にカミングアウトしてないため常に「彼氏」と言い換えて話をしていたが、いつかボロが出ないか不安だった。(レズビアン・女性/学生)

ゲイバレしかけて火消しが大変だった。(ゲイ・男性/卒業生)

みんなの前で「ゲイなん？」と聞いていたりする状況。(ゲイ・男性/学生)

もしカミングアウトしたらその反応が怖い。(バイセクシュアル・男性/学生)

周囲で性的少数者が小馬鹿にされているのでバレるのが怖い。(バイセクシュアル・男性/学生)

同性の友達と手をつないで、ホモと言われた。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

解決策について-キャンパスライフ（サークル・部活）

大学の対策として考えられる以下の選択肢を提示し、必要だと思う対策すべてに複数選択が可能な形で回答をもとめた。

- 1、学生に向けて LGBT などの授業を必修で行う。
- 2、LGBT の基礎知識や人権などに関する啓発パンフレットを学生に配布する。
- 3、学生手帳に LGBT の基礎知識や人権などを記載する。
- 4、関西学院が 2014 年に発表したインクルーシブコミュニティ宣言を学生手帳に記載する。
- 5、教職員にむけて LGBT などの研修を行う。
- 6、学生に対して、LGBT の基礎知識や人権に関するセミナーや研修会を開催する。
- 7、大学の全公認学生団体に対して、LGBT 基礎知識や人権に関するセミナーや研修会を開催する。
- 8、今のままでよい。
- 9、思い浮かばない。
- 10、その他（自由記述）

以下が用意した項目にチェックされた数の表である。

表 9: 「キャンパスライフにおける解決策」(人)

	当事者	非当事者	合計
学生に向けて LGBT などの授業を必修で行う。	24 (14.5)	29 (12.7)	53 (13.4)
LGBT の基礎知識や人権などに関する啓発パンフレットを学生に配布する。	17 (10.2)	33 (14.4)	50 (12.7)
学生手帳に LGBT の基礎知識や人権などを記載する。	17 (10.2)	21 (9.2)	38 (9.6)
関西学院が 2014 年に発表したインクルーシブコミュニティ宣言を学生手帳に記載する。	17 (10.2)	21 (9.2)	38 (9.6)
教職員にむけて LGBT などの研修を行う。	33 (19.9)	34 (14.8)	67 (17.0)
学生に対して、LGBT の基礎知識や人権に関するセミナーや研修会を開催する。	24 (14.5)	39 (17.0)	63 (15.9)
大学の全公認学生団体に対して、LGBT 基礎知識や人権に関するセミナーや研修会を開催する。	18 (10.8)	32 (14.0)	50 (12.7)
今のままでよい。	8 (4.8)	10 (4.4)	18 (4.6)
思い浮かばない。	8 (4.8)	10 (4.4)	18 (4.6)
合計	166 (100.0)	229 (100.0)	395 (100.0)

表 10: 「キャンパスライフにおける解決策—トランスジェンダー抜粋」(人)

	トランス ジェンダ ー
学生に向けて LGBT などの授業を必修で行う。	4 (14.3)
LGBT の基礎知識や人権などに関する啓発パンフレットを学生に配布する。	2 (7.1)
学生手帳に LGBT の基礎知識や人権などを記載する。	4 (14.3)
関西学院が 2014 年に発表したインクルーシブコミュニティ宣言を学生手帳に記載する。	3 (10.7)
教職員にむけて LGBT などの研修を行う。	5 (17.9)
学生に対して、LGBT の基礎知識や人権に関するセミナーや研修会を開催する。	5 (17.9)
大学の全公認学生団体に対して、LGBT 基礎知識や人権に関するセミナーや研修会を開催する。	2 (7.1)
今のままでよい。	2 (7.1)
思い浮かばない。	1 (3.6)
合計	28 (100.0)

キャンパスライフの困難などにおける改善策は以下であった。(自由記述より)

【トランスジェンダーの人】

LGBT の学生向けに、マツコ・デラックス学をしてほしい。なぜマツコは人気なのか、その答えが異性愛者中心の世界に自分らしく溶け込むヒントが得られるかもしれない。(Trans to Female/卒業生)

【以下、その他】

ランチ会、スポーツイベントなど、あらゆる形で LGBT 同士、LGBT とストレートが学生レイヤーで関わりあえる場をたくさん作って欲しいです。(バイセクシュアル・男性/学生)

LGBT の人たちだけが集まれる機会がほしい。どのくらい自分の立場に近い人がいるのかわからないからいつも不安だから。(ゲイ・男性/学生)

LGBT だけでなく、性別による役割をなくせるよう、どの性別でも多様な方向性があることを示せるようなセミナーがあると良い。(バイセクシュアル・女性/学生)

LGBT 以外にも多様な問題があるため、全部やろうとすることは不可能。LGBT だけを取り上げると、それ以外の問題で悩んでいる少数者はどうなるのか。(シスジェンダーヘテロ・女性/教職員)

性的少数者への差別を中心とする問題が発生した部活・サークルに対して注意・勧告を行う。(無回答/学生)

失敗した経験から学ぶ。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

問題に関して、同性愛もトランスジェンダーも一貫して、人間関係の構築の難しさを挙げる意見が多かった。具体的には、自分のセクシュアリティがばれる不安、セクシュアリティを揶揄される経験、カミングアウトの迷い、自分のセクシュアリティを隠しながら会話するストレスなどである。

解決策に関して、LGBT 同士が集まれる場を提供してほしいという意見や、性の多様性を理解するセミナーの開講、LGBT の芸能人を中心とした授業の開講の意見があった。また注意を徹底することなども挙げられた。

【大学の授業】

困難、不安などの経験について-大学の授業

大学の授業に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあるかの有無は以下の数になった。

表 11 : 「大学の授業における問題、困難、不安の有無」 (人)

	当事者	非当事者	合計
ある	13(16.5)	4(3.4)	17(8.6)
ない	50(63.3)	109(92.4)	159(80.7)
答えたくない	2(2.5)	0(0.0)	2(1.0)
わからない	14(17.7)	4(3.4)	18(9.1)
その他	0(0.0)	1(0.8)	1(0.5)
無回答	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
合計	79(100.0)	118(100.0)	197(100.0)

表 12 : 「大学の授業における問題、困難、不安の有無ートランスジェンダー抜粋」 (人)

	トランスジェンダー
ある	6(46.2)
ない	6(46.2)
答えたくない	0(0.0)
わからない	1(7.7)
その他	0(0.0)
無回答	0(0.0)
合計	13(100.0)

「大学の授業の困難などある」と回答した人の自由記述は以下のとおりである。

【トランスジェンダーの人の記述】

授業で人間の発達や成熟を話す際、常に異性婚が前提の口ぶりであり、その事実を意識する度授業内でグループをつくる際に、男性と女性とでわかるなど。(X gender/学生)

男女二元論及び異性愛主義を前提として話を進められること。(X gender/学生)

授業後に、LGBTに理解があると公言する講師にこっそりカミングアウトしたら、大声で反応が返ってきて、しかもそれがなかなか止まらなかったため、デリカシーがないと思った。(Trans to Female/卒業生)

【以下、その他】

授業で人間の発達や成熟を話す際、常に異性婚が前提の口ぶりであり、その事実を意識する度に「自分は他の大多数とは違う、同じになれない、普通ではない」と不安な思いに駆られる。(レズビアン・女性/学生)

ジェンダーの授業の先生が、女尊男卑論者であり、平等なジェンダー論とは全く言えなかった。(バイセクシュアル・女性/卒業生)

教員による偏見を含む言動。(バイセクシュアル・女性/学生)

ジェンダー的差別用語を聞くことがまれにある くん付けさん付けなど。(バイセクシュアル・女性/無回答)

教授の差別的な言動。(バイセクシュアル・女性/学生)

授業中に講師が同性愛者を蔑視する発言を行った。(無回答/無回答)

男性教職員の暴言や学生に対する軽口。男子学生は怖くないというが大声を出されると威圧感を感じるし、怖い。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

男女どちらか挙手を求められた。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

解決策について-大学の授業

大学の対策として考えられる以下の選択肢を提示し、必要だと思う対策すべてに複数選択が可能な形で回答をもとめた。

- 1、教員向けに LGBT の基礎知識や人権に関する研修を行う。
- 2、教員に向けて、授業を行う前にハラスメントを起こさないためのルールを知ってもらう機会を設ける。
- 3、LGBT の基礎知識や人権などに関する啓発パンフレットを授業で学生に配布する。
- 4、LGBT の基礎知識や人権などに関する啓発パンフレットを教員に配布する。
- 5、今のままでよい。
- 6、思い浮かばない。
- 7、その他（自由記述）

以下が用意した項目にチェックされた数の表である。

表 13 : 「大学の授業における解決策」 (人)

	当事者	非当事者	合計
教員向けに LGBT の基礎知識や人権に関する研修を行う。	39 (28.3)	54 (30.2)	93 (29.3)
教員に向けて、授業を行う前にハラスメントを起こさないためのルールを知ってもらう機会を設ける。	34 (24.6)	44 (24.6)	78 (24.6)
LGBT の基礎知識や人権などに関する啓発パンフレットを授業で学生に配布する。	20 (14.5)	28 (15.6)	48 (15.1)
LGBT の基礎知識や人権などに関する啓発パンフレットを教員に配布する。	27 (19.6)	27 (15.1)	54 (17.0)
今のままでよい。	8 (5.8)	14 (7.8)	22 (6.9)
思い浮かばない。	10 (7.2)	12 (6.7)	22 (6.9)
合計	138 (100.0)	179 (100.0)	317 (100.0)

表 14 : 「大学の授業における解決策—トランスジェンダー抜粋」(人)

	トランス ジェンダ ー
教員向けに LGBT の基礎知識や人権に関する研修を行う。	5 (23.8)
教員に向けて、授業を行う前にハラスメントを起こさないためのルールを知ってもらう機会を設ける。	5 (23.8)
LGBT の基礎知識や人権などに関する啓発パンフレットを授業で学生に配布する。	3 (14.3)
LGBT の基礎知識や人権などに関する啓発パンフレットを教員に配布する。	4 (19.0)
今のままでよい。	1 (4.8)
思い浮かばない。	3 (14.3)
合計	21 (100.0)

大学の授業の困難などにおける改善策は以下であった。(自由記述より)

ルールを設けるだけでなく、電話相談窓口などの告発できる場所を設け、教員にプレッシャーを掛ける必要があると思います。学生と同じく、教員も形だけのルールを設定しても守るインセンティブがなければ守りません。(バイセクシュアル・男性/学生)

性的少数者に対して差別的な発言を行った教職員に対して注意・勧告を行い、改善されない場合は処分を検討する。(無回答/無回答)

問題に関して、性別二元論、異性愛中心主義の授業の進行によって戸惑いを感じるというものであった。特にセクシュアリティを揶揄する、偏見を含む言動、差別的な言動、女性蔑視、男女に分けるなどの経験が挙げられた。ほかにもこっそりと話したカミングアウトの反応を公に行うなど、アウトィング行為に近い行為も見受けられた。

解決策に関して、取締りを強化し、ハラスメントのない授業の開講を徹底してほしいという意見が中心であった。

【健康診断】

問題、困難、不安などの経験について-健康診断

健康診断に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあるかの有無は以下の数になった。

表 15 : 「健康診断における問題、困難、不安の有無」(人)

	当事者	非当事者	合計
ある	6(7.6)	2(1.7)	8(4.1)
ない	66(83.5)	114(96.6)	180(91.4)
答えたくない	1(1.3)	0(0.0)	1(0.5)
わからない	5(6.3)	2(1.7)	7(3.6)
その他	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
無回答	1(1.3)	0(0.0)	1(0.5)
合計	79(100.0)	118(100.0)	197(100.0)

表 16 : 「健康診断における問題、困難、不安の有無ートランスジェンダー抜粋」(人)

	トランスジェンダー
ある	5(38.5)
ない	4(30.8)
答えたくない	1(7.7)
わからない	2(15.4)
その他	0(0.0)
無回答	1(7.7)
合計	13(100.0)

「健康診断の困難などある」と回答した人の自由記述は以下のとおりである。

【トランスジェンダーの人】

温泉等でも思うのだが、一緒にいていいのかなと思う。(Trans to Female/卒業生)

更衣の部屋で変な目で見られる。(X gender/学生)

更衣室がオープンなのが苦手。(X gender/学生)

私自身は中性であり他人に関心がないので問題ないが、LGBTの者は検査時に他の学生の中で薄着になることに対して抵抗を覚えたりするのではないかと想像したことがある。(X gender/学生)

【以下、その他】

健康診断の内科検診で、なんとなく胸を触られたような気がしたことがあります。友人の間でも共感を得たことがあります。(レズビアン・女性/学生)

私自身は感じたことはないが、LGBTの方にとっては戸籍上の性別だけで判断されるのは如何なものか。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

解決策について-健康診断

大学の対策として考えられる以下の選択肢を提示し、必要だと思う対策すべてに複数選択が可能な形で回答をもとめた。

- 1、健康診断開催日に、男女問わず個別対応ができる日を設ける。
- 2、健康診断に関わる医療従事者に LGBT の基礎知識や人権に関する研修を行う。
- 3、健康診断に関わる医療従事者に LGBT の基礎知識や人権に関するパンフレットを配布する。
- 4、今のままでよい。
- 5、思い浮かばない。
- 6、その他（自由記述）

以下が用意した項目にチェックされた数の表である。

表 17：「健康診断における解決策」（人）

	当事者	非当事者	合計
健康診断開催日に、男女問わず個別対応ができる日を設ける。	43 (44.3)	62 (45.9)	105 (45.3)
健康診断に関わる医療従事者に LGBT の基礎知識や人権に関する研修を行う。	23 (23.7)	31 (23.0)	54 (23.3)
健康診断に関わる医療従事者に LGBT の基礎知識や人権に関するパンフレットを配布する。	17 (17.5)	17 (12.6)	34 (14.7)
今のままでよい。	5 (5.2)	13 (9.6)	18 (7.8)
思い浮かばない。	9 (9.3)	12 (8.9)	21 (9.1)
合計	97 (100.0)	135 (100.0)	232 (100.0)

表 18：「健康診断における解決策—トランスジェンダー抜粋」（人）

	トランス ジェンダ ー
健康診断開催日に、男女問わず個別対応ができる日を設ける。	7 (63.6)
健康診断に関わる医療従事者に LGBT の基礎知識や人権に関する研修を行う。	1 (9.1)
健康診断に関わる医療従事者に LGBT の基礎知識や人権に関するパンフレットを配布する。	1 (9.1)
今のままでよい。	1 (9.1)
思い浮かばない。	1 (9.1)
合計	11 (100.0)

健康診断の困難などにおける改善策は以下であった。(自由記述より)

【トランスジェンダーの人】

更衣時の個室を作してほしい。(X gender/学生)

保健館にて個別に対応してもらいました。(Trans to Male/学生)

【以下、その他】

健康診断に関わる医療従事者に LGBT の基礎知識や人権に関するパンフレットを配布する。
(ヘテロシスジェンダー・女性/学生)

健康診断には関係ないけど男女のトイレの他に LGBT のためのあるいは誰でも使えるトイレを取り入れる。(ヘテロシスジェンダー・男性/学生)

離れた校舎や施設で LGBT 向けにのみ健康診断を行う日を数日設けると良いと思います。
(バイセクシュアル・男性/学生)

問題に関して、トランスジェンダーからは、不審な目で見られる、更衣室がオープンすぎるという指摘や男女別で分けられることへの戸惑いなどがあった。

解決策に関して、個別対応することや、医療従事者に知識を深めるパンフレットの配布などがあげられた。

【トイレ】

問題、困難、不安などの経験について-トイレ

トイレに関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあるかの有無は以下の数になった。

表 19 : 「トイレの利用に関する問題、困難、不安の有無」(人)

	当事者	非当事者	合計
ある	3(3.8)	3(2.5)	6(3.0)
ない	69(87.3)	113(95.8)	182(92.4)
答えたくない	1(1.3)	1(0.8)	2(1.0)
わからない	4(5.1)	1(0.8)	5(2.5)
その他	1(1.3)	0(0.0)	1(0.5)
無回答	1(1.3)	0(0.0)	1(0.5)
合計	79(100.0)	118(100.0)	197(100.0)

表 20 : 「トイレの利用に関する問題、困難、不安の有無-トランスジェンダー抜粋」(人)

	トランスジェンダー
ある	2(15.4)
ない	8(61.5)
答えたくない	1(7.7)
わからない	1(7.7)
その他	1(7.7)
無回答	0(0.0)
合計	13(100.0)

「トイレの困難などある」と回答した人の自由記述は以下のとおりである。

【トランスジェンダーの人】

障害者用トイレを利用しようとしたら、断られたことがあります。(Trans to Male/学生)

【以下、その他】

質問の趣旨と外れるかもしれないが、私はシス女性の立場から。学内女性用トイレにて、見た目では男性か女性か判別がつかない人とトイレで出会い、目があい、相手もおそらく私の動揺を察知して、気まずそうに去っていった、という出来事があった。もしかすると悪意ある男性、しかしもしかするとトランス等の方だったのかもとも思う。しかし女性トイレで犯罪等警戒せざるを得ない事情も譲れない。下記対策が充実してほしいと思った次第。(アセクシュアル・女性/学生)

誰でも入れるトイレがない。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

解決策について-トイレ

大学の対策として考えられる以下の選択肢を提示し、必要だと思う対策すべてに複数選択が可能な形で回答をもとめた。

- 1、既存の障害者用トイレを誰でもトイレ・ユニバーサルトイレ・多機能トイレなどに名称変更する。
- 2、学内に障害者用／多目的トイレの数を増加する。
- 3、今のままでよい。
- 4、思い浮かばない。
- 5、その他（自由記述）

以下が用意した項目にチェックされた数の表である。

表 21 : 「トイレの利用における解決策」(人)

	当事者	非当事者	合計
既存の障害者用トイレを誰でもトイレ・ユニバーサルトイレ・多機能トイレなどに名称変更する。	36 (44.4)	53 (43.1)	89 (43.6)
学内に障害者用／多目的トイレの数を増加する。	32 (39.5)	43 (35.0)	75 (36.8)
今のままでよい。	7 (8.6)	16 (13.0)	23 (11.3)
思い浮かばない。	6 (7.4)	11 (8.9)	17 (8.3)
合計	81 (100.0)	123 (100.0)	204 (100.0)

表 22 : 「トイレの利用における解決策-トランスジェンダー抜粋」(人)

	トランス ジェンダ ー
既存の障害者用トイレを誰でもトイレ・ユニバーサルトイレ・多機能トイレなどに名称変更する。	4 (33.3)
学内に障害者用／多目的トイレの数を増加する。	6 (50.0)
今のままでよい。	1 (8.3)
思い浮かばない。	1 (8.3)
合計	12 (100.0)

トイレの困難などにおける改善策は以下であった。(自由記述より)

LGBT だけでなく、女性用トイレも増やすべきだと思います。(バイセクシュアル・男性/学生)

性自認に合うトイレを普通に利用できることを認める。(ゲイ・男性/教職員)

障害者用という文言を排した多目的トイレを複数設置する。(女性として生活する男性/学生)

千図相するわけには行かないと思うが、全てを個室トイレにし男女別のない箇所をいくつか設ける。ヨーロッパなどには時々ある。(シスジェンダーヘテロ・女性/教職員)

※千図相と記入されていたが、おそらく「全部そう」の記入間違いだと考える。

性的少数者への理解が及ばない日本において、あえて性的少数者である事が分かってしまうようなトイレを作る必要はないと感じるが、今のままで良いとは到底言えない。よって、名称を変更したり、「障害者用・多目的用」トイレを増やすのではなく、普通の個室トイレを増やすべきであると考えます。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

1つ前の質問ときのことと障害者用トイレという名称をやめ、多目的トイレもしくは別の名前でしか呼ばないようにする(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

【更衣室】

問題、困難、不安などの経験について-更衣室

更衣室に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあるかの有無は以下の数になった。

表 23 : 「更衣室における問題、困難、不安の有無」(人)

	当事者	非当事者	合計
ある	4(5.1)	2(1.7)	6(3.0)
ない	64(81.0)	106(89.8)	170(86.3)
答えたくない	2(2.5)	1(0.8)	3(1.5)
わからない	8(10.1)	6(5.1)	14(7.1)
その他	1(1.3)	2(1.7)	3(1.5)
無回答	0(0.0)	1(0.8)	1(0.5)
合計	79(100.0)	118(100.0)	197(100.0)

表 24 : 「更衣室における問題、困難、不安の有無-トランスジェンダー抜粋」(人)

	トランスジェンダー
ある	4(30.8)
ない	5(38.5)
答えたくない	1(7.7)
わからない	2(15.4)
その他	1(7.7)
無回答	0(0.0)
合計	13(100.0)

「更衣室の困難などある」と回答した人の自由記述は以下のとおりである。

【トランスジェンダーの人】

体育館の更衣室など。(X gender/学生)

男女できっちり分かれている所。(X gender/学生)

【以下、その他】

プールの更衣室は互いに丸見えである。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

問題に関しては、多目的用トイレの設置数が少ないことや、それらを利用しようとした際に、断れるというケースがあった。

解決策に関しては、設置の増設や名称の工夫、また利用を認めることが必要であるという意見が挙げられた。

解決策について-更衣室

大学の対策として考えられる以下の選択肢を提示し、必要だと思う対策すべてに複数選択が可能な形で回答をもとめた。

- 1、性別問わず利用できる個室の更衣室を設ける。
- 2、脱衣所に仕切りをつくる。
- 3、今のままでよい。
- 4、思い浮かばない。

以下が用意した項目にチェックされた数の表である。

表 25 : 「更衣室における解決策」 (人)

	当事者	非当事者	合計
性別問わず利用できる個室の更衣室を設ける。	35 (43.8)	42 (40.4)	77 (41.8)
脱衣所に仕切りをつくる。	26 (32.5)	25 (24.0)	51 (27.7)
今のままでよい。	6 (7.5)	16 (15.4)	22 (12.0)
思い浮かばない。	13 (16.3)	21 (20.2)	34 (18.5)
合計	80 (100.0)	104 (100.0)	184 (100.0)

表 26 : 「更衣室における解決策—トランスジェンダー抜粋」 (人)

	トランスジェンダー
性別問わず利用できる個室の更衣室を設ける。	7 (41.2)
脱衣所に仕切りをつくる。	6 (35.3)
今のままでよい。	0 (0.0)
思い浮かばない。	4 (23.5)
合計	17 (100.0)

更衣室の困難などにおける改善策は以下であった。(自由記述より)

性自認に合わせて更衣室を利用できることを認める。(ゲイ・男性/教職員)

仕切りに近いけど個人ロッカー(脱衣所)を取り入れる。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

問題に関しては、男女のみで別れている更衣室へのためらいや、丸見えである状況に対するものであった。

解決策に関しては、仕切りを取り入れることや、性自認にあわせた更衣室の利用を認めるなどの意見が挙げられた。

【書類（授業評価アンケート）】

問題、困難、不安などの経験について-授業評価アンケート

授業評価アンケートに関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあるかの有無は以下の数になった。

表 27：「授業評価アンケートにおける問題、困難、不安の有無」（人）

	当事者	非当事者	合計
ある	9(11.4)	4(3.4)	13(6.6)
ない	59(74.7)	109(92.4)	168(85.3)
答えたくない	2(2.5)	0(0.0)	2(1.0)
わからない	9(11.4)	2(1.7)	11(5.6)
その他	0(0.0)	1(0.8)	1(0.5)
無回答	0(0.0)	2(1.7)	2(1.0)
合計	79(100.0)	118(100.0)	197(100.0)

表 28：「授業評価アンケートにおける問題、困難、不安の有無－トランスジェンダー抜粋」（人）

	トランスジェンダー
ある	5(38.5)
ない	6(46.2)
答えたくない	0(0.0)
わからない	2(15.4)
その他	0(0.0)
無回答	0(0.0)
合計	13(100.0)

「授業評価アンケートの困難などある」と回答した人の自由記述は以下のとおりである。

【トランスジェンダーの人】

一般的にあって、性別を問う必然性の感じられない書類に性別欄を設けるのは、邪推を招くものでしかなく、当該項目を即刻削除されたい。(X gender/学生)

性別記入欄。(X gender/学生)

【以下、その他】

自分はゲイなので問題ないがトランスの人からするとピッタリと当てはまる欄がないのできちんと性別欄を分けて作らないといけないと思う。性別欄をなくすのは海外でもよく見かけるので良いと思う。(ゲイ・男性/学生)

性別を書く必要性がわからない。(バイセクシュアル・女性/学生)

卒業生なので、具体的にはないが、もしあれば、記入するときイヤである。性別による、評価をして、今後どのように活用する目的があるのか不明。男性には受けないが、女性に受けるので、今後男性に受けるようにしろ、というのでしょうか。そもそも、授業評価に性別は全く不要と思います。なんでも、性別を入れれば、分析をしたと思う発想がおかしいと思います。(ゲイ・男性/卒業生)

LGBTの学生がいやな思いをするのではないかと考えると不安になる。(シスジェンダーヘテロ・女性/教職員)

性別がそもそも記入不要だと思う。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

マークシートで男女を選択させられる。授業評価が男女別で集計される必要が理解できない。不要であると感じており、関学の宣言などと矛盾していると感じている。(シスジェンダーヘテロ・男性学生)

授業評価アンケートの性別欄に男女の項目しかなかった。(無回答/無回答)

解決策について-授業評価アンケート

大学の対策として考えられる以下の選択肢を提示し、必要だと思う対策すべてに複数選択が可能な形で回答をもとめた。

- 1、性別欄を削除する。
- 2、男性・女性という選択肢以外に、「その他・答えたくない」という選択肢を加える。
- 3、今のままでよい。
- 4、思い浮かばない。

以下が用意した項目にチェックされた数の表である。

表 29 : 「授業評価アンケートにおける解決策」 (人)

	当事者	非当事者	合計
性別欄を削除する。	32 (40.0)	28 (27.5)	60 (33.0)
男性・女性という選択肢以外に、「その他・答えたくない」という選択肢を加える。	37 (46.3)	46 (45.1)	83 (45.6)
今のままでよい。	8 (10.0)	17 (16.7)	25 (13.7)
思い浮かばない。	3 (3.8)	11 (10.8)	14 (7.7)
合計	80 (100.0)	102 (100.0)	182 (100.0)

表 30 : 「授業評価アンケートにおける解決策—トランスジェンダー抜粋」 (人)

	トランスジェンダー
性別欄を削除する。	8 (44.4)
男性・女性という選択肢以外に、「その他・答えたくない」という選択肢を加える。	8 (44.4)
今のままでよい。	2 (11.1)
思い浮かばない。	0 (0.0)
合計	18 (100.0)

授業評価アンケートの困難などにおける改善策は以下であった。(自由記述より)

不要な場合は削除、どうしても性別欄が必要な場合には「その他」などの選択肢を必ず入れる。
(シスジェンダーヘテロ・男性/教職員)

「その他」「答えたくない」は別にしたほうが本人にとってLGBTであることを悪く思わせないと思う。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

問題に関しては、男女のみで分けるアンケートの意味がわからないという意見が様々なセクシュアリティから集められている。関学の宣言と矛盾しているという意見もある。

解決策に関しては、男女の有意差を調べたい場合は、排他的な調査設計ではなく、「その他」項目を設けるなど、至急対策が必要である。

【窓口や相談機関】

問題、困難、不安などの経験について-窓口や相談機関

窓口や相談機関に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあるかの有無は以下の数になった。

表 31 : 「窓口や相談機関における問題、困難、不安の有無」 (人)

	当事者	非当事者	合計
ある	5(6.3)	1(0.8)	6(3.0)
ない	68(86.1)	112(94.9)	180(91.4)
答えたくない	2(2.5)	4(3.4)	6(3.0)
わからない	4(5.1)	0(0.0)	4(2.0)
その他	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
無回答	0(0.0)	1(0.8)	1(0.5)
合計	79(100.0)	118(100.0)	197(100.0)

表 32 : 「窓口や相談機関における問題、困難、不安の有無ートランスジェンダー抜粋」 (人)

	トランスジェンダー
ある	4(30.8)
ない	6(46.2)
答えたくない	0(0.0)
わからない	3(23.1)
その他	0(0.0)
無回答	0(0.0)
合計	13(100.0)

「窓口や相談機関の困難などある」と回答した人の自由記述は以下のとおりである。

【トランスジェンダーの人】

セクシャルに限らず、マイノリティが人目を憚って集まるために部屋を貸し出す制度がなかった。（または周知されてなかった）(Trans to Female/卒業生)

自分の性別について2回カウンセリングしてもらいましたが、なかなか予約が取れないし、あまり解決には向かわなかったのので、通わなくなった。(Trans to Female/学生)

理解がなかったらどうしようと感じた。(X gender/学生)

【以下、その他】

カウンセラーに面談へ行った際、相談したい項目の中に性指向の事もあったが、カウンセラーはかなり露骨にその話題へ触れないようにして流されてしまい、結局話したかった事のほとんどを話せないまま面談が終わった。(レズビアン/学生)

解決策について-相談機関や窓口

大学の対策として考えられる以下の選択肢を提示し、必要だと思う対策すべてに複数選択が可能な形で回答をもとめた。

- 1、職員に対して、LGBT に関する研修を行う。
- 2、こうした体験を相談できる学内機関についてより広報する。
- 3、守秘義務を徹底する。
- 4、今のままでよい。
- 5、思い浮かばない。

以下が用意した項目にチェックされた数の表である。

表 33 : 「窓口や相談機関における解決策」(人)

	当事者	非当事者	合計
職員に対して、LGBT に関する研修を行う。	32 (29.6)	40 (25.0)	72 (26.9)
こうした体験を相談できる学内機関についてより広報する。	29 (26.9)	43 (26.9)	72 (26.9)
守秘義務を徹底する。	36 (33.3)	55 (34.4)	91 (34.0)
今のままでよい。	1 (0.9)	13 (8.1)	14 (5.2)
思い浮かばない。	10 (9.3)	9 (5.6)	19 (7.1)
合計	108 (100.0)	160 (100.0)	268 (100.0)

表 34 : 「窓口や相談機関における解決策—トランスジェンダー抜粋」(人)

	トランスジェンダー
職員に対して、LGBT に関する研修を行う。	3 (21.4)
こうした体験を相談できる学内機関についてより広報する。	5 (35.7)
守秘義務を徹底する。	3 (21.4)
今のままでよい。	0 (0.0)
思い浮かばない。	3 (21.4)
合計	14 (100.0)

窓口や相談機関の困難などにおける改善策は以下であった。(自由記述より)

【トランスジェンダーの人】

いくつか問題点は考えられるが、マイノリティの生徒の申請で部屋を貸し出せる制度があってもよいと思う。(Trans to Female/卒業生)

【以下、その他】

守秘義務を徹底するというより、守秘義務を徹底していることを分かりやすく公示すべきだと思います。(バイセクシュアル・男性/学生)

隠蔽体制を変えないことには、ハラスメントの被害が埋もれてしまう。対策教員の上司がハラッサーではどうしようもない。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

問題に関しては、セクシュアリティに関する理解がないことへの不安や、相談に行ったが、(露骨に)セクシュアリティの話題を避けられている(と感じる)意見があった。またカウンセリングの予約が取れないなどの制度的な指摘もあった。

解決策は、守秘義務を徹底していることなど、より対策についての公示をしていくなどが挙げられた。

その他・大学に要望・相談など

—知識を深める・偏見の解消を求める意見—

年に一度でもいいので、当事者の方のお話を全学生に聴かせる機会が必要だと思います。一番心に響くのは当事者の方の言葉なので。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

まずは学生や教師、学校に関わる人全てに LGBT についてまず考えてみる時間を設けてほしい。そのために必須の授業は1つ素晴らしい方法だと思う。他の大学でやっているところも全く聞いたことがないのでやってみるべきだと思います。(ゲイ・男性/学生)

関学ではないですが友達に LGBT の子がいるので職員の方々もっと知識を持ってあげてください。彼女達は私達よりも性別についてもっとつらいことを経験しています。分かちあってあげてください。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

LGBT に関する授業を必修にするのはいい取り組みだと思います。(Trans to Female/卒業生)

学部に対する偏見が酷い。「学部」への理解も互いに深め、尊重する教育をするべきである。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

lgbt について、理解のある大学になることを希望します。(Trans Female/学生)

教員という人を教える立場でありながらジェンダーに関する知識がないのか考慮しない発言をする人に落胆することが多いので本当きちんとしたほうが良いと思います。(バイセクシュアル・女性/無回答)

—気持ちを理解してほしいという意見—

当事者の意見を聞く、聞けば済むものでもなく、当事者が当事者として、発言できるか疑問です。当事者がどれほどの思いをして、発言するのかまずその点を理解することが肝要だと思います。(ゲイ・男性/卒業生)

男性だから女性だからといった固定概念を持ったまま指導している先生がまだ数多くいます。本人達はそんなに重要なことだと思って話していないかも知れませんが、端々にそういった考えが読み取れる時があるので気をつけていただきたいです。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

—大学の設備に対する意見—

ハラスメント相談室へのアクセスがわかりづらい。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

聖和3号館はスロープがなく、車椅子の方が入りづらいと思う。7号館で2階から3階の教室に行くときに車椅子ではいけない場所がある。
聖和に多目的トイレを見たことがないので、不安のある学生にはとても学生生活を送りにくい場所であると思う。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

—レインボーウィークに対する意見など(肯定的な意見)—

今やっている啓発などをやめずに続けてほしい。(アセクシュアル・女性/学生)

理解してあげようとか尊重しているよというような相手からすれば上から目線になるような支援の仕方は逆効果。いわゆる **straight** と言われる男女と、いわゆる **LGBT, X** ジェンダーと言われる第3の性別は平等の扱い。**coming-out** が問題なく出来る、**coming-out** という特別な言葉がなくとも周りが普通に接している環境を作ることが大切。レインボーウィークで扱う言葉遣いにも気をつけて(上から目線×)こういう活動を続けて欲しい。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

公認の学生団体などがあるのであれば、もっと表立って活動してほしい。そのような団体があるのであればもっと心に余裕が生まれます。(レズビアン・女性/学生)

レインボーウィークは大々的に開催され、様々なイベントもあり学生や教員等に **LGBT** や性的マイノリティのことを知ってもらう良い催しだと思っている。しかし、より多くの人に、より深い関心や理解を持ってもらうためには、アンケートの選択欄に多数あったように、パンフレットの配布や学生・教員向けのセミナーの開催など、レインボーウィークだけではなく細かな「理解を得る」機会やきっかけを引き続き設けることが大切だと思う。(バイセクシュアル・女性/教職員)

—レインボーウィークに対する意見など（否定的な意見）—

正直なところ大きな問題として取り上げないでほしい。（ゲイ・男性/卒業生）

LGBT が大きく取り上げられているが、在日〇〇人、精神障害者、部落出身者など、他のマイノリティーはどうなるのか？全てやっていたらきりがなく、どの問題も社会の理解だけでなく、個々人である程度はケリをつけなければいけない問題である。国籍・性別などのラベルではなく、相手を“あるがまま”に受け入れることが大切であると感じるが、多様な価値観がない(と思われている)日本ではそれが進んでいない。（シスジェンダーヘテロ・女性/教職員）

—大学のあり方を問う意見—

まず、教員を中心に性的少数者への差別的発言・蔑視発言が依然として行われていることを認識してほしいと思います。これらの言動はまぎれもない人権侵害であり、学生の人格を傷つけるものです。また、人権と多様性を尊重するという本学の方針にも明確に反しています。大学当局が真に多様性の尊重と性的少数者への差別の廃絶を望まれるのならば、こうした発言・行動が確認された教職員に対しては厳重な注意・勧告、また改善されない場合は講師契約の解除・免職等の処分を検討すべきであると考えます。

また、学内における様々な配慮に加え、本学の「性的少数者の権利向上・多様性の尊重」という方針を学外に対しても広く発信していただきたいと思います。学院長・学長等による談話の発表や一般市民向けの公開講座・講演会の開催、また HP やパンフレットに本学の性的少数者に関する方針を明記することをご検討いただければと思います。これらは本学が自らの立場を明確にし、「社会的責任をもって」それを推進するものであることを発信する一つの方法であると思います。（無回答/学生）

授業の評価のアンケートや、トイレ、更衣室など、確かに LGBT の人にとっては生活しにくい環境なのかなと思います。関学の魅力はやはり **Mastery For Service** ですので、誰もが一人一人の個性を活かした生活を出来るように LGBT のことに関しても先陣を切って取り組むべきだと考えます。（シスジェンダーヘテロ・女性/学生）

パナソニックといった企業や、淀川区などの自治体のように、関学がもっと全面的にキャンパス内のセクシュアリティの多様性を受けれることを表明するとともに、対応した制度を構築していくことを強く望みます。（シスジェンダーヘテロ・男性/教職員）

—その他、意見—

Sexuality で差別される意味がわからない。(バイセクシュアル・男性/学生)

私はバイセクシュアルであることをずっと隠してきていますが、学内というよりも学外で他の学生からの差別的な言動によく傷つきます。私が該当者だとは考えもしていないのです。もっと大学側から LGBT が少数派でも少数ではないという教育をしたり LGBT にフレンドリーな雰囲気をつくったりしていただければ、それは私たちにとって大きな力になります。(バイセクシュアル・女性/学生)

最後に意見・要望などあればご自由にお書きください。

私は LGBT ではありません。しかし私には発達障害(アスペルガー症候群)があります。自分を特別視して他人を陥れるような社会が、マイノリティな人たちを苦しめているのだと思います。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

How Christianity really treats LGBT need to be “re-observed” (シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

LGBTに対して今以上に寛容な姿勢をとることが重要だと感じました。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

立命や icu の進んだ取り組みを見習ってほしい。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

ゲイであることは秘密にしてそっとひっそり暮らしたい。(ゲイ・男性/卒業生)

LGBTにかかわらず学生たちにもっと何かについて、まずは考えてみる時間を授業の中で作ってほしいです。(ゲイ・男性/学生)

やはり自分に素直をしたほうがいい。(ゲイ・男性/学生)

私は友人に LGBT の人がいます。

やはりとてもそういった知識を持つ人が少ないです。

そういった人がいるとはわかっているけど、TVの世界だと思っている人や目の前の人がかミングアウト出来ていないだけかもしれないといった意識が全くない人が多いから、傷つく友人を今まで見てきました。

もっと身近に LGBT の人がいるんだということを広めていっていただきたいです。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

少なくともアンケートをする点は評価されますが、アンケートを取りました、ではダメで、いかに行動を起こすのか、それが問われていると思います。

関学として、性差別解消に具体的にどれだけのことをしてきたのでしょうか、しているのでしょうか。それを素直に振り返ってみることも重要です。それは、女性差別・

LGBT差別だけではなくすべての差別に対してもです。そして、自ら差別に加担していないか、謙虚に振り返ることも必要です。(ゲイ・男性/卒業生)

Sexuality によって差別される意味がわからない。オムライス嫌いだったら差別されますか。まだそういった sexuality による差別、偏見が見られるように思います。(バイセクシュアル・男性/学生)

仕方がないとは言え、いつも関学主催の LGBT 関連のイベントは平日にあるように感じます。社会人としては、休日に参加できるイベントもあったら嬉しいなと思います。知らないだけかもしれませんが。(Trans Female/卒業生)

こういったアンケートの個別意見はしっかり読まれているのでしょうか？もしもこの文に目を通した場合、アンケートの調査結果を発表する際に「アンケートに対する個別意見もしっかりと読んでいる」という旨の文を載せていただきたい。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

本調査結果が速やかに、かつ学生の意見記述を多く含む形で公表されることを願っています。(無回答/学生)

図書館に行かないと、LGBT に関するイベントを開催していることまったく気がついてないので、もっとアピールしたほうがいいと思う。(シスジェンダーヘテロ・女性/学生)

少数派だから保護しよう、大切にしようなどの同情の精神は一切ありません。ただ、少しでも大学生生活が過ごしやすいものになればいいなと思います。同じ境遇の方と繋がりをもちたいです。(レズビアン・女性/学生)

カストロシティ(アメリカ)のように全ての性別が当たり前で共存している社会にするためにも関学が日本社会のきっかけの1つになることを願っています。(シスジェンダーヘテロ・男性/学生)

まとめ

セクシュアリティを理由とする問題・困難・不安とそれに対する解決策を、「就職活動」「部活・サークル」「大学の授業」「健康診断」「トイレ」「更衣室」「授業評価アンケート(書類)」「窓口や相談機関」の8つのカテゴリーに分けて尋ねた。

「就職活動」では、理解があるか不安である、ライフコースが描けないといった記述の他に、男女別で分かれているリクルートスーツや、採用などの課題が明らかとなった。その解決策として、企業や学校への理解をもとめる記述が多く見られた。

「部活・サークル」では、カミングアウトへの不安や恋バナについていけないなど、人間関係の構築の難しさについての記述が見られた。解決策では、対談するイベントを設けるなどであった。学生の“風土”を変えることを大きな目標としてレインボーウィークを開催しているが、今後もより学生・教職員の意識を変えていく必要があるだろう。

「大学の授業」では、性別二元論、異性愛中心主義の授業の進行によって戸惑いを感じるというものや、セクシュアリティを揶揄する、偏見を含む言動、差別的な言動、男女に分けるなどの経験が挙げられた。解決策では、理解を求める、注意を徹底するなどの記述があった。学生の課題のみならず、大学の授業においても“中心主義”を見つめ直し、関学に集うすべての学生に安全な教育の場を提供するが求められている。

「健康診断」では、更衣室がオープンすぎることや、男女別に分けられることへの戸惑いなどが挙げられた。解決策では、個別対応などの実例や、医療関係者にパンフレットを配るなどして理解を促すことなどが挙げられた。更衣室のつくりなどの設備の問題と、医療関係者などへの理解の問題と両輪で取り組んでいく必要がある。

「トイレ」では、問題に関しては、多目的用トイレの設置数が少ないことや、それらを利用しようとした際に、断られるというケースがあった。解決策では、設置の増設や名称の工夫、また利用を認めるべきという意見が挙げられた。トイレの設備について今後検討していく必要がある。

「更衣室」では、「健康診断」に関する課題と重複する部分があるが、男女別に分かれている更衣室への困難や、丸見えである状況である設備的な課題が取り上げられた。解決策では、仕切りを取り入れることや、性自認にあわせた更衣室の利用を認めるなどの意見が挙げられた。「だれでも使えるトイレ」を増やすよう検討すべきである。

「授業評価アンケート（書類）」については、男女のみ限定した設問方法に戸惑う意見が、当事者・非当事者共に多く集まった。性別を聞く必要がなければ、「男」「女」の設問を廃止する。また、もし、有意であるかどうか知りたい場合（設問を作る必要がある場合）は、「その他」の項目を含めるなど、性的少数者を排除しない書類やアンケートの設計が急務である。関学では特定の宗教・人種・性別などで、人々を排除しない提言を行っている。「男」「女」のみの設問の作り方は、「男」「女」どちらかに該当するセクシュアリティしか想定されておらず、その他のセクシュアリティを結果的に、回答を難しくさせている。関学に携わるすべての人（授業評価アンケートの例では学生）に包括的に調査を実施・分析するためには、性別欄に「その他」を設けることを検討すべきである。

日本図書館協会のガイドライン³では、合理的配慮の項目において「男女別」の申込用紙を社会的障壁とし、対応を行っている。ほかにも就職活動のサイト⁴などでも、学生に向けて自己紹介データの性別欄に「その他」を選択できる取組みがはじまっている。

「窓口や相談機関」については、セクシュアリティに関して相談しに行くことへの不安や、セクシュアリティの相談を（露骨に）避けられたといった実例があげられた。セクシュアリティの課題を真摯に受け止め、対応できるように設備を整えるべきであるし、それらが対応できることを広く公示していく必要があるだろう。

以上、問題・困難・不安や、それに対する解決策などを上記の8つのカテゴリーに分け検討した。自由記述を丹念にみていくことで、それらのどこに課題があるのか、そのような対策ができるのかを考えていく必要がある。その中で、「トイレ」や「更衣室」や「授業評価アンケート」などの“設備的”な課題と、「部活・サークル」や「大学の授業」などの“意識的”な課題が混在していることが分かる。設備的な問題は、誰でも使えるトイレを増やす、更衣室に仕切りを作る、性別欄に「その他」を加えるなどの対策が必要であるとともに“意識的”な課題においても、学生のみならず、教職員、医療関係者、対応するカウンセラーなどにも、LGBTをはじめとする性的少数者の理解を深めるパンフレットの配布、研修・対談を行うなど、理解を深める機会を設けていく必要がある。関学に集うすべての人に対して、ハラスメントが起きないよう学院側は対策を講じることが不可欠であると同時に、特定のマイノリティに限らず、あらゆる分野において改善が求められている。

³ 「図書館における障害を理由とする差別の解消の推進に関するガイドライン」
http://www.jla.or.jp/portals/0/html/lsh/sabekai_guideline.html

⁴ 就職支援サービスを行う「i-plug（アイプラグ）」など。